

香川大学 瀬戸内圏研究センター 設立記念シンポジウム



KAGAWA
UNIVERSITY

日時

平成21年3月3日(火)
13:30~16:35

場所

香川県社会福祉総合センター
コミュニティホール

[主催] 国立大学法人香川大学

[後援] 香川県、高松市、NHK高松放送局、KSB瀬戸内海放送、四国新聞社

瀬戸内圏研究センター紹介

「瀬戸内圏研究センターの役割」



香川大学
瀬戸内圏研究センター長
本城 凡夫

略 歴

昭和48年……九州大学農学部水産学科助手
昭和48年……農林水産省東海区水産研究所水質部研究員
昭和59年……養殖研究所環境管理部室長
昭和63年……南西海区水産研究所赤潮環境部室長
平成 5年……南西海区水産研究所赤潮環境部部長
平成 7年……養殖研究所企画連絡室長
平成 8年……九州大学農学部教授
平成12年……九州大学大学院農学研究院教授
平成20年……九州大学名誉教授
平成21年……香川大学瀬戸内圏研究センター長
現在に至る

説明概要

香川大学は、瀬戸内圏の中核都市として発展してきた高松にあって「知の総合拠点」の形成を使命とし、赤潮研究、廃棄物対策、遠隔診断など地域密着型の優れた研究を展開してきました。新設の瀬戸内圏研究センターは、1)学長戦略調整費による「瀬戸内圏研究プロジェクト」の学内研究支援、2)行政、企業、活動団体、地域住民からの意見収集と課題の発掘、3)行政や企業等との受託研究や共同研究の推進、4)瀬戸内圏研究に関するデータベースの作成と発信、5)研究成果の公開、6)国、県、市町村等への政策提言を主な役割としています。

研究報告

「干潟を含めた浅海域の生態系研究」



香川大学
瀬戸内圏研究センター副センター長
農学部 教授
多田 邦尚

略 歴

昭和58年……香川大学農学部卒
昭和60年……香川大学大学院農学研究科修士課程修了
昭和63年……北海道大学大学院水産学研究科
博士後期過程単位取得退学
平成 2年……香川大学助手
平成 9年……香川大学助教授
平成14年……香川大学教授
平成21年……香川大学瀬戸内圏研究センター副センター長（併任）
現在に至る

報告概要

瀬戸内海は過去の高度経済成長期には「瀕死の海」と呼ばれるまでその環境は悪化していましたが、1973年に瀬戸内法が制定され、水質を中心に環境改善の努力が続けられました。その結果、水質はかなり改善されたと言われていますが、一方で、イワシ類やアサリ等の漁獲量は低迷を続けています。特に、ここ数年は、養殖ノリの収穫期である冬季に栄養塩が不足してノリが色落ちするという深刻な問題が起きています。

このような背景を踏まえて、演者は香川大学内に研究集団「チーム瀬戸内海」を組織し、干潟とその沖合い域の低次生物生産過程における物質循環と生物機能について研究しています。今回は、干潟域の生物機能、および、その沖合い域での栄養塩不足（栄養塩異変：ノリの色落ち問題）について報告します。

「瀬戸内圏の地域文化の発見と観光資源の創造」



香川大学
経済学部 教授
稲田 道彦

略 歴

昭和54年………東京都立大学理学研究科博士課程中退
昭和54年………香川大学教育学部助手
昭和55年………香川大学教育学部講師
昭和57年………香川大学教育学部教授
平成10年………香川大学経済学部教授
現在に至る

報告概要

この研究は、瀬戸内海地域の観光資源の発掘、観光の実態、地域社会の研究と3部門からなります。研究者の学問領域を、観光の要素と結びつけて考えました。

文化に関して、瀬戸内海島嶼の両墓制など死にまつわる習俗を調査しました。また、瀬戸内の島嶼の島遍路研究では小豆島や栗島で調査を重ねています。古代の讃岐産サヌカイトの交易の研究について、坂出市金山サヌカイト原産地遺跡の発掘調査を行いました。

観光研究として、舞鶴ふるるファームに先進事例調査に出かけました。同じく直島でも学生の活動「直島プロジェクト」と島の活性化を結びつける研究調査活動を継続して行っています。

地域社会の研究では、豊島と直島で環境・観光への取り組みについて現地調査を行いました。人口減少で地域の存続そのものが危ぶまれており、実態把握や政策的提言と結びつけた研究の必要性があります。

「瀬戸内圏における生涯健康カルテ(EHR)ネットワーク構想」



香川大学
医学部附属病院 教授
原 量宏

略 歴

昭和45年………東京大学医学部医学科卒業
昭和45年………東京大学医学部産科婦人科学教室入局
昭和55年………香川医科大学母子科学講座助教授
昭和55年～57年…ドイツ連邦共和国ハイデルベルグ大学留学
平成12年………香川医科大学附属病院医療情報部教授
現在に至る

報告概要

本プロジェクトでは、周産期電子カルテとかがわ遠隔医療ネットワーク(K-MIX)の機能を増強し、胎児・新生児期から乳幼児、学童期、成人、高齢者までを管理できる、生涯の健康を管理するEHR(Electronic Health Record)を実現します。香川大学が中心となり、香川県、香川県医師会、IT関連企業の協力体制のもと、瀬戸内住民への医療及び健康に関するサービスの向上を目指し、電子親子手帳の活用、電子成人手帳の開発と活用、電子長寿手帳の開発と活用、生涯健康カルテ(EHR)の基本設計を行いました。生涯の健康福祉情報を住民と医師・保健師などが共有することで、病気にかかる前の早期発見が可能になり、安心・安全な健康生活につながります。また、住民一人ひとりが自分の情報を参照したり登録することで、自らの健康増進などへの健康意識の向上に役立ちます。

パネルディスカッション「瀬戸内圏に豊かな社会を築くために」

パネリスト



四国旅客鉄道株式会社
相談役

梅原 利之氏

略歴

昭和36年………京都大学工学部卒業
昭和36年………日本国有鉄道入社
昭和62年………西日本旅客鉄道株式会社取締役
平成 8年………四国旅客鉄道株式会社代表取締役専務
平成10年………四国旅客鉄道株式会社代表取締役社長
平成16年………四国旅客鉄道株式会社代表取締役会長
平成20年………四国旅客鉄道株式会社相談役
現在に至る



株式会社直島文化村
代表取締役社長

笠原 良二氏

略歴

平成 3年………岡山大学法学部卒
平成 3年………株式会社ベネッセコーポレーション
(当時株式会社福武書店) 入社
平成 5年………同社の直島プロジェクトを担当
平成 8年………ベネッセハウス総支配人
平成18年………株式会社ベネッセコーポレーション直島事業部長、
株式会社直島文化村代表取締役社長
現在に至る

多田 邦尚 香川大学瀬戸内圏研究センター副センター長・農学部 教授
稲田 道彦 香川大学経済学部 教授
原 量宏 香川大学医学部附属病院 教授

コーディネーター：香川大学瀬戸内圏研究センター長 **本城 凡夫**

スケジュール

13:30~13:40 開会挨拶 一井眞比古 香川大学長
13:40~13:45 来賓挨拶 真鍋 武紀氏 香川県知事

瀬戸内圏研究センター紹介

13:50~14:10 「瀬戸内圏研究センターの役割」
本城 凡夫 香川大学瀬戸内圏研究センター長

研究報告

14:10~14:30 「干潟を含めた浅海域の生態系研究」
多田 邦尚 香川大学瀬戸内圏研究センター副センター長・農学部 教授
14:30~14:50 「瀬戸内圏の地域文化の発見と観光資源の創造」
稲田 道彦 香川大学経済学部 教授
14:50~15:10 「瀬戸内圏における生涯健康カルテ(EHR)ネットワーク構想」
原 量宏 香川大学医学部附属病院 教授

パネルディスカッション

15:30~16:30 「瀬戸内圏に豊かな社会を築くために」
コーディネーター：本城 凡夫 香川大学瀬戸内圏研究センター長
パネリスト：梅原 利之氏 四国旅客鉄道株式会社 相談役
笠原 良二氏 株式会社直島文化村 代表取締役社長
多田 邦尚 香川大学瀬戸内圏研究センター副センター長・農学部 教授
稲田 道彦 香川大学経済学部 教授
原 量宏 香川大学医学部附属病院 教授

16:30~16:35 閉会挨拶 前田 肇 香川大学理事(学術担当)